

仙台市小学生交通環境学習推進委員会 第5回委員会

平成24年7月13日（金）午前10時00分～
仙台市役所本庁舎2階 第五委員会室

次 第

1. 開 会
2. あいさつ
3. 委員及び事務局紹介
4. 議 事
 - (1) 平成24年度の取り組みについて ……………資料①
 - (2) その他
5. 閉 会

配布資料

- 資料① 第5回仙台市小学生交通環境学習推進委員会
<平成24年度の取り組みについて>

(平成24年7月13日現在)

仙台市小学生交通環境学習推進委員会名簿

	所属・役職名	氏名	備考
学識経験者	東北工業大学 工学部都市マネジメント学科 准教授	きくち あきら 菊池 輝	
学識経験者	宮城教育大学 大学院教育学研究科 教授	よしむら としゆき 吉村 敏之	
市民団体等	NPO法人 まちづくり政策フォーラム 理事	あだち ちかこ 足立 千佳子	
市民団体等	公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク 理事	かどた ようこ 門田 陽子	
市民団体等	NPO法人 まなびのたねネットワーク 代表理事	いせ みゆき 伊勢 みゆき	
小学校関係	仙台市小学校教育研究会 生活科・総合的な学習研究部会 会長 (仙台市立 虹の丘小学校 校長)	にしじま しげお 西嶋 茂雄	
小学校関係	仙台市小学校教育研究会 社会科部会 会長 (仙台市立 台原小学校 校長)	さとう とよき 佐藤 豊喜	
行政機関	国土交通省東北運輸局交通環境部環境課 課長	しまなか たつなり 嶋中 達也	新任
行政機関	仙台市教育局学校教育部教育指導課 課長	やまき けんいち 八巻 賢一	

第5回 仙台市小学生交通環境学習推進委員会 出席者名簿

＜ 委 員 ＞

	所 属 ・ 役 職 名	氏 名	備 考
委員長 (学識経験者)	東北工業大学 工学部都市マネジメント学科 准教授	きくち あきら 菊池 輝	
副委員長 (学識経験者)	宮城教育大学 大学院教育学研究科 教授	よしむら としゆき 吉村 敏之	
市民団体等	NPO法人 まちづくり政策フォーラム 理事	あだち ちかこ 足立 千佳子	
市民団体等	公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク 理事	かどた ようこ 門田 陽子	
市民団体等	NPO法人 まなびのたねネットワーク 代表理事	いせ みゆき 伊勢 みゆき	
小学校関係	仙台市小学校教育研究会 生活科・総合的な学習研究部会 会長 (仙台市立 虹の丘小学校 校長)	にしじま しげお 西嶋 茂雄	
小学校関係	仙台市小学校教育研究会 社会科部会 会長 (仙台市立 台原小学校 校長)	きとう とよき 佐藤 豊喜	
行政機関	国土交通省東北運輸局交通環境部環境課 課長	しまなか たつなり 嶋中 達也	代理出席 宮澤 淳 課長補佐
行政機関	仙台市教育局学校教育部教育指導課 課長	やまき けんいち 八巻 賢一	

＜オブザーバー＞

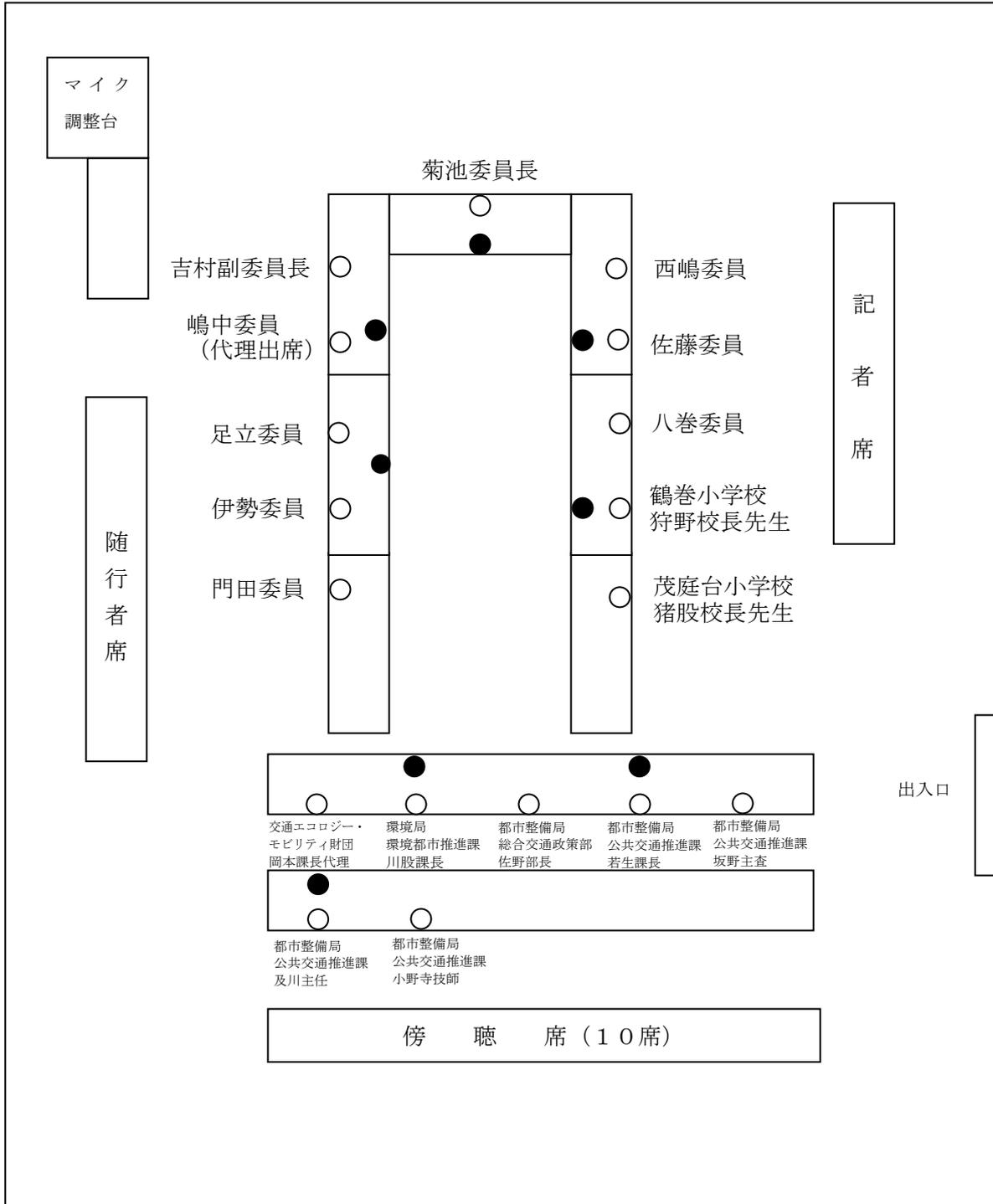
授業実施校	仙台市立広瀬小学校 校長	かわらぎ みちや 河原木 美智也	欠 席
授業実施校	仙台市立鶴巻小学校 校長	かの たかひこ 狩野 孝彦	
授業実施校	仙台市立茂庭台小学校 校長	いのまた あきふみ 猪股 亮文	

＜ 事 務 局 ＞

交通エコロジー・ モビリティ財団	交通環境対策部 交通環境企画課 課長代理	おかもと ひであき 岡本 英晃	
仙台市	都市整備局総合交通政策部 部長	きの こうし 佐野 公司	
仙台市	環境局環境部環境都市推進課 課長	かわまた なおや 川股 直哉	
仙台市	都市整備局総合交通政策部公共交通推進課 課長	わこう たかし 若生 孝志	
仙台市	都市整備局総合交通政策部公共交通推進課 主査	さかの ひろゆき 坂野 浩之	
仙台市	都市整備局総合交通政策部公共交通推進課 主任	おいかわ じゅんいち 及川 純一	
仙台市	都市整備局総合交通政策部公共交通推進課 技師	おの であら しんすけ 小野寺 伸介	

第5回 仙台市小学生交通環境学習推進委員会 席次表

平成24年7月13日(金) 10:00～
 仙台市役所本庁舎2階 第五委員会室



第5回

仙台市小学生交通環境学習推進委員会

<平成24年度の取り組みについて>

平成24年7月

仙 台 市



目次

- 1 取り組みの背景・目的**
- 2 これまでの経緯**
- 3 取り組みの方針**
- 4 平成24年度の取り組み（予定）**

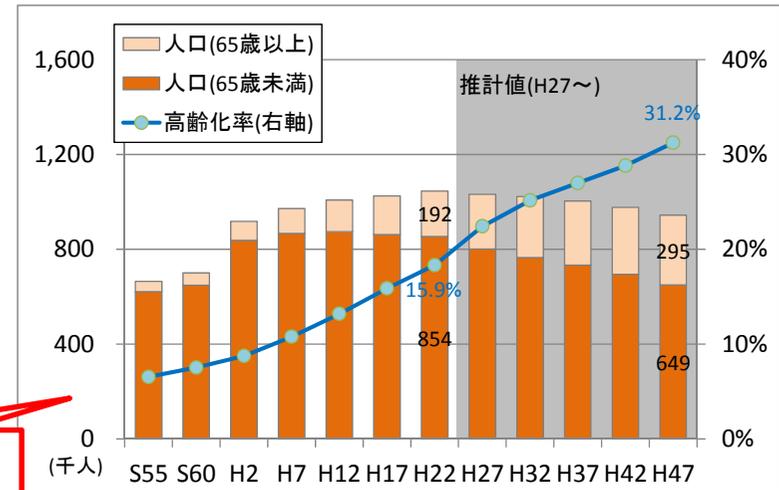
1 取り組みの背景・目的

はじめに



- 人口減少時代の到来、急速な高齢化の進展が見込まれる中、仙台市では持続的発展と暮らしやすさの確保を目指し、高齢者を含む交通弱者の交通手段となる公共交通の利便性向上を図り、賑わいのあるまちを市民とともに創ることを目指している。

H47には高齢化率は31%
(H22より約10万人増加)



▲仙台市の将来推計人口と高齢化率※

そのような中で、一人ひとりの移動や地域の交通に着目すると…

- 自動車は行きたいところにいつでも気軽に、かつ快適に移動できる素晴らしい乗り物である一方、大気汚染や地球温暖化などの環境問題、慢性的な交通渋滞、公共交通機関の衰退など、様々な問題の一つの原因となっている。
- これらの問題を解決するためには、市民一人ひとりが交通と環境との関わりを認識・理解し、移動や市全体の交通のあり方を、工夫を重ねながらよりよいものに改善していく必要がある。

※出典1: 国勢調査(H22まで)

※出典2: 社会保障・人口問題研究所による推計値(H27~)

小学生に向けた取り組みの背景



公共交通離れの進行

- ・市バスの利用者はピーク時の約36%に減少
（市交通局の1日平均のバス乗降者数：111千人（H22年度）※ピーク時305千人（S55年度））

乗車習慣の低下

- ・クルマ社会の進展により、親世代の公共交通離れが加速
- ・公共交通の利用経験が無いこどもが増加（普段はクルマが当たり前）

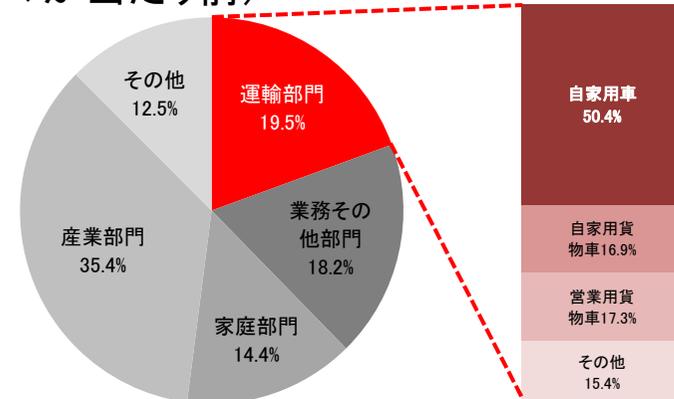
地球環境問題の顕在化

- ・二酸化炭素等の温室効果ガスの排出量増加によって、地球温暖化が進行
- ・国内の二酸化炭素排出量のうち、運輸部門は20%、その50%が自家用自動車（H22）



環境意識の醸成と公共交通利用の促進

小学生のうちから交通と環境について学ぶ機会を創出し、環境のため、望ましい交通社会を実現するための知識・能力・意識を高め、過度にクルマに依存せずに公共交通を利用できるようにする。将来的に公共交通を利用する意識を持った人を育てることで、自家用車による環境負荷を軽減することを狙いとする。また将来的には本市が暮らしやすく持続的に発展が可能な都市へと転換していくために重要な役割を担う。



▲部門別二酸化炭素排出量(H22)※

2 これまでの経緯

取り組みの経緯



低学年

中学年

高学年

H16
H17
H18
H19
H20
H21

路線バス乗車体験（低学年）

路線バスで、バス営業所・CNGガ
スステーションなどへ見学
※ 実施実績: 延べ56校
(H16~H21年度)



お出かけ調べ教室

※ 実施実績: 2校 (H20・21年度)

仙台市小学生交通環境学習推進委員会の設置

H22

- ・ 国語、生活科
- ・ 事前授業 + 乗車移動
- ※ 2校で実施



- ・ 社会科
- ・ 事前学習 + 乗車移動
- ※ 1校で実施



- ・ 総合的な学習
- ・ 事前学習 + 乗車移動
- ※ 1校で実施



H23

- ・ 生活科
- ・ 事前授業 + 乗車移動
- ※ 2校で実施



委員会設置の経緯



小学校からの意見 (H16～H21の取組みより)

- ・ 参加した小学生は楽しみながら学習することができた。
- ・ 乗車するという体験を通して、理解が深まった。
- ・ 親子のコミュニケーションの非常に良い機会となった。
- ・ DVD等で事前学習することで、より理解を深めるのではないか。

課題

- ・ 多くの学校から参加希望があったが、実施できる学校が限られていた。
- ・ 実施が単発的であり、複数年に渡って継続的な事業になっていない。
- ・ 先生以外からの説明が、小学生に理解されにくい。
- ・ 環境面の説明が不足していた。
- ・ 小学校の先生方も、交通と環境に関する知識や理解を深めてもらう必要がある。



「小学生交通環境学習推進委員会」設置

広範囲に継続的に進めていくため、公共交通だけではなく、
環境教育と連携して小学校教育の一環として取り組める枠組みを検討

3 取り組みの方針

交通環境学習の実施検討方針



教育現場では・・・

- 新学習指導要領の実施（平成23年度）
- 学習内容の多様化
- 教職員の事務作業の増加



交通環境学習を各校の授業計画の中に

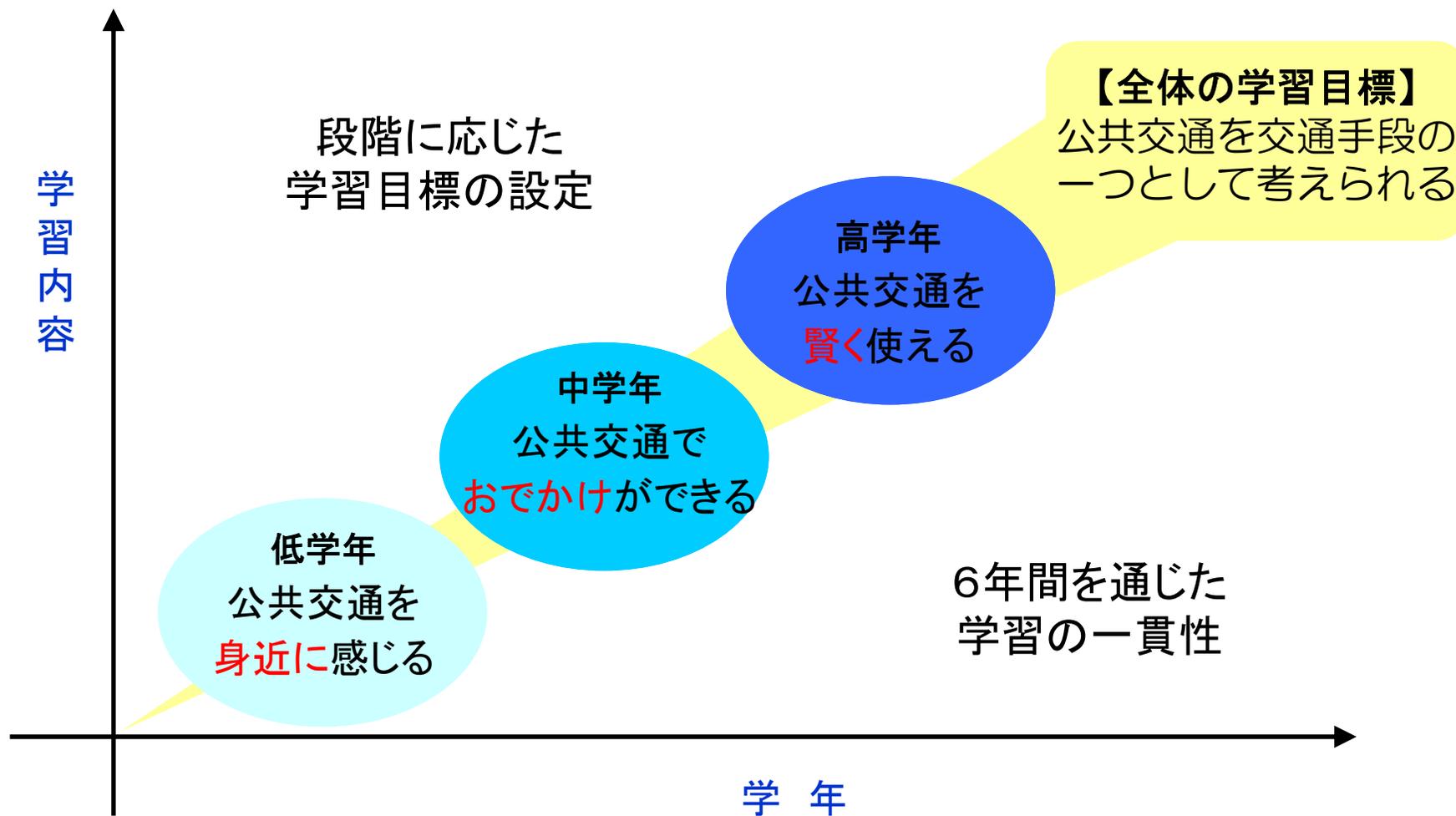
“取り組みやすく、効果的に”

に組み込み、既存の授業内容にプラスする。

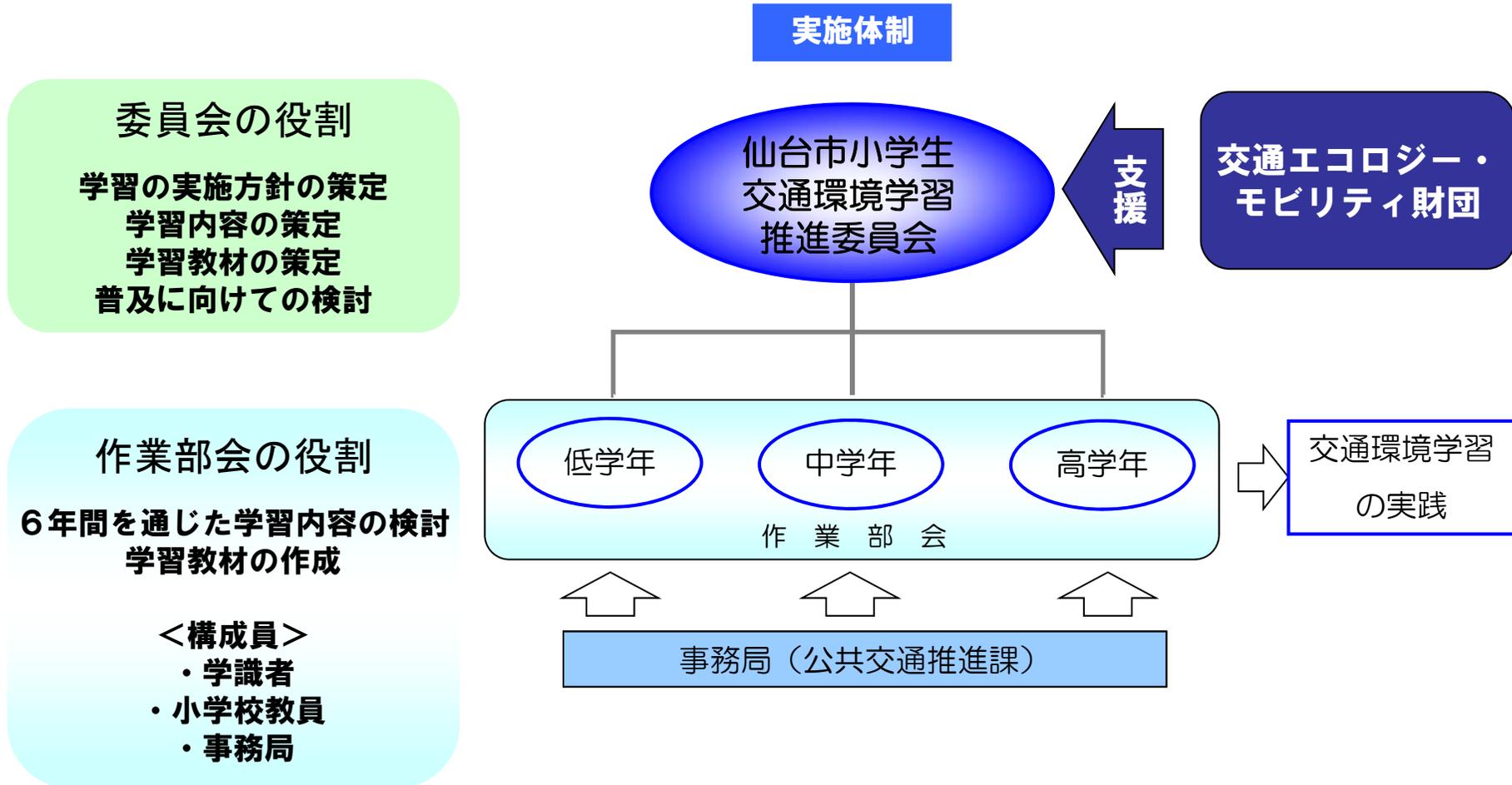
⇒継続的かつ広範に取り組みやすくなる

⇒実効性の高いプログラムとして取り組んでいく

取り組みの目標



取り組みの体制



各学年の学習目標と学習内容



	低学年	中学年	高学年
学習目標	<p>公共交通を 身近に感じる</p> <p>公共交通に親しみながら、公共交通に乗れるようになる</p>	<p>公共交通で おでかけができる</p> <p>公共交通を使い、目的の場所まで行けるようになる</p>	<p>公共交通を 賢く使える</p> <p>ケースに合わせ、交通手段を賢く選択できるようになる</p>
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な交通手段を知る ・公共交通を知る ・乗り方、降り方を学ぶ ・公共交通利用のマナーを知る ・公共交通の利用は、環境にもよいことを知る 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通でのおでかけ <ul style="list-style-type: none"> ◇目的地までの行き方を調べる ◇時刻、運賃等を調べる ◇実践する ・公共交通とまちづくりの関係を知る ・公共交通と環境の関係を知る 	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な交通手段のそれぞれの長所、短所を知る <ul style="list-style-type: none"> ◇環境面 ◇時間面 ◇安全面 ◇経費面 ◇健康面 等 ・公共交通の役割を知る ・交通手段の選び方を考える

目指す交通環境学習のイメージ



4 平成24年度の取り組み

第4回委員会の意見と対応



(H24.3.21開催)

委員からの主な意見	今年度の対応方針
① 低学年の目標「公共交通を身近に感じる」に対し、アンケートのどの部分で評価しているか。	① 過年度の調査結果を踏まえ、各学年の目標に対してのアンケートでの評価項目や設問内容を再検討する。
② 乗り方や降り方だけではなく、公の場での振舞い方も一緒に身に付けていく内容に。また、アンケート項目も加味した内容に。	② 乗車マナーについて更なる充実を検討し、アンケートへも反映させる。
③ 子供達に「公共交通の利用は楽しく、勉強になり環境にも役立つ」ことを気づかせる内容に。	③ 「公共交通の楽しさ」や「環境にも役立つ」ことを気づかせる内容を検討する。(子供に興味を持たせるよう、授業内容を工夫)
④ どの場面でどの教材を使うか分かれば、教材に不足している内容が見えてくる。	④ 既存教材の使用場面を整理した上で、不足している内容の確認を行う。
⑤ 保護者にも関心を持ってもらうために、参加(見学や引率等)してもらっては。	⑤ 保護者の参加形態について検討する。
⑥ 体験授業後の振り返り学習を行なう必要がある。	⑥ 学年に応じた振り返り学習の内容を検討する。
⑦ 公共交通の役割を認識させる内容に。	⑦ 各学年に応じ、公共交通の役割を伝える学習内容を検討する。

全体スケジュール



低学年

中学年

高学年

H22・23年度

- ・ 学習教材（案）、学習内容（案）の検討
- ・ 授業の実施

H24年度

- ・ 学習教材・指導の手引き・学習内容（案）の策定
- ・ 授業の実施

H25年度

- ・ 学習教材・指導の手引き・学習内容の確定
- ・ 授業の実施
- ・ 全市的な普及・継続的な取り組みへ向けての方策検討

平成26年度以降 広範囲で継続的な交通環境学習の実施へ

平成24年度のスケジュール(案)



平成24年度

平成24年5月～6月

平成24年度 実施校との調整
・学年(低・中・高)毎の組み込む教科単元、学習項目、学習教材の検討

平成24年7月13日

第5回 仙台市小学生交通環境学習推進委員会(取組方針)

平成24年7月～平成24年10月

授業計画の立案・教材の作成

平成24年10月(予定)

第6回 仙台市小学生交通環境学習推進委員会(学習内容)

平成24年10月～平成25年1月

授業の実施・作業部会による効果検証

平成25年1月～2月

手引き(案)作成・広報資料(案)作成

平成25年3月(予定)

第7回 仙台市小学生交通環境学習推進委員会(年度報告)

平成24年度の実施小学校について



これまで実施のご協力を頂いた、「鶴巻小学校」、「広瀬小学校」、「茂庭台小学校」に加え、新たに「台原小学校」、「虹の丘小学校」にもご協力頂けることとなりました。

	低学年	中学年	高学年
鶴巻小学校	2年生	4年生	—
広瀬小学校	2年生	—	—
茂庭台小学校	—	3年生	—
台原小学校	—	—	5年生
虹の丘小学校	—	—	5年生

平成24年度の実施小学校について



平成24年度の低学年の取り組み



鶴巻小学校（2年）

低学年の目標

公共交通を**身近**に感じる

学習計画（案）の方針

公共交通機関に乗車する体験を通じて、公共交通機関を身近に感じてもらう。

担当の先生の見解・要望

- ・早くて9月、遅くとも11月には実施したい
 - ・バスの中で災害に逢ったらどのように行動すればよいのかといった、防災面をプラスした教育内容にしたい。
- ⇒H25年より市全域で行う防災教育のモデル校として、防災教育を行っているため

学習計画（案）

- ・詳細は未確定
（夏休み期間に計画作成予定、夏休み明けから、実施に向けて打合せ等を行っていく）

平成24年度の低学年の取り組み



広瀬小学校（2年）

低学年の目標

公共交通を**身近**に感じる

学習計画（案）の方針

公共交通機関に乗車する体験を通じて、公共交通機関を身近に感じてもらう。

担当の先生の意見・要望

・物に対する意味づけの学習を行なっている。乗り方や降り方だけではなく、例えば、公共交通に携わる人や利用する人などの視点からの学習を行ない、公共交通というものの意味を理解させてから公共交通を利用する学習などが考えられる。

学習計画（案）

・詳細は未確定

・生活科で、公共物や公共施設と取扱う単元での実施を検討中

平成24年度の中学年の取り組み



鶴巻小学校（4年）

中学年の目標

公共交通で**おでかけ**ができる

学習計画（案）の方針

校外学習での施設見学時に、**公共交通の役割**を学んでもらうとともに、**公共交通での移動に必要な情報（時間・運賃等）を調べ**、公共交通で移動し、移動方法を学んでもらう。

担当の先生の意見・要望

・遅くとも11月には実施可能

学習計画（案）

校外学習時に公共交通で移動するための事前(事後)授業と体験授業

[事前(事後)授業]

・詳細は未確定
（夏休み期間に計画作成予定、夏休み明けから、実施に向けて打合せ等を行っていく）

[体験授業]

・ごみ処理場見学が予定されているため、その移動において組み込む予定

平成24年度の中学年の取り組み



茂庭台小学校（3年）

中学年の目標

公共交通で**おでかけ**ができる

学習計画（案）

・10月3日実施予定の校外学習(科学館)に組み込む予定

学習計画（案）の方針

校外学習での施設見学時に、**公共交通の役割**を学んでもらうとともに、**公共交通での移動に必要な情報(時間・運賃等)**を調べ、公共交通で移動し、移動方法を学んでもらう。

担当の先生の意見・要望

・担当先生との打合せ未実施(現在調整中)



台原小学校（5年）

高学年の目標

公共交通を賢く使える

学習計画（案）の方針

校外学習での施設見学時に、自分たちで移動経路を決め、その移動に必要な情報を調べて移動し、公共交通の移動方法を学んでもらう。

担当の先生の意見・要望

- ・事前授業(時刻表等について調べる)で1校時使うことが予想される、また行動計画作成と環境面の学習は同時には行いにくい
- ・だからといって、公共交通の環境影響について1校時別に設けることは計画上不可能
- ・教材の中に環境影響のコラム等を記載し、行動計画を作成しながら環境の話題にも触れる、また、校外学習で公共交通を使った後、それを読んだり、感想を書いたりすることでフィードバックするという流れは考えられる

学習計画（案）

校外学習時に自分たちで移動方法を選んだ上で、移動するための事前授業と体験授業

[事前授業]

- ・公共交通での移動に必要な情報(時間、運賃等)の調べ方について
- ・実際に調べ、行動計画を作成する

[体験授業]

校外学習時に運行している公共交通機関を利用して、見学施設に移動



虹の丘小学校（5年）

高学年の目標

公共交通を賢く使える

学習計画（案）の方針

校外学習での施設見学時に、自分たちで移動経路を決め、その移動に必要な情報を調べて移動し、公共交通の移動方法を学んでもらう。

担当の先生の意見・要望

- ・授業後に「公共交通は環境にやさしいという良い面がある、だから公共交通を使おうと思う」などといった感想を、児童が持つような授業にしたい。
- ・環境面も、公共交通を推進する背景としてももちろん大切だが、やはり「公共交通に興味を持ってもらうこと」が、利用促進につながると考える。
- ・事前事後アンケートは、教育目標をリンクするべき。

学習計画（案）

- ・詳細は未確定
（夏休み期間に計画作成予定、夏休み明けから、実施に向けて打合せ等を行っていく）
- ・社会科や理科、総合的な学習等、適宜必要な校時数、計画に組み込む予定

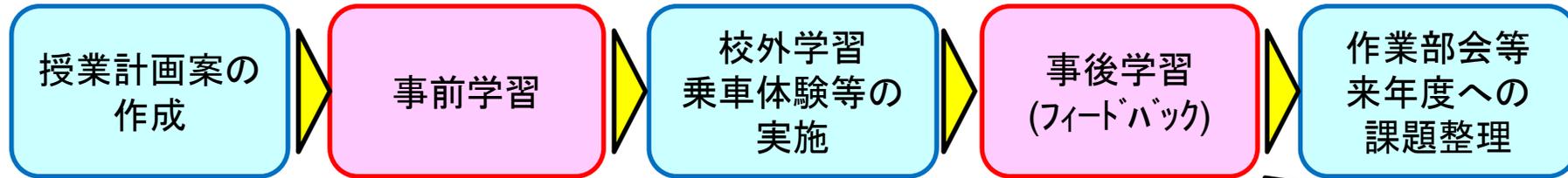
環境要素の組み込み(案)

環境面の学習組み込み(案)



現時点で想定される授業の流れと、環境要素の組み込み案

- ・校外学習・乗車体験を計画している学校が多い
- ・校外学習・乗車体験の事前、事後学習として、公共交通と環境の関わりについて学ぶことを提案



- **事前授業として、環境学習**を行う
- 必要と考えられる学習内容としては以下の2点
 - ① 地球温暖化の現状とCO₂の関わりについて
 - ・ 今地球が**温暖化によって、どういう状況**にあるのか？
 - ・ 地球温暖化によって**生活にどう影響**を受けるのか？
 - ・ 地球温暖化の**原因**は何か？
 - ② CO₂排出と自家用車、公共交通の関わりについて
 - ・ 自家用車、公共交通が**どのくらいCO₂を排出**するのか？
 - ・ 自家用車利用を控えることが**どの程度CO₂削減に寄与**するか？

普段の**自動車移動を、公共交通に変える**ことで、**CO₂削減、地球温暖化抑制に大きな効果がある**ことを学ぶ

- 校外学習による公共交通移動をベースにしたCO₂排出量の試算値を用いて環境と交通について考えさせる
 - ・ 校外学習での移動と、もし全員が**自家用車で移動(仮定)**した場合とで、**どのくらいCO₂排出量が違ったか**を試算、比較してみる。
 - ・ 学習を通して、**今後の地球環境を考えたときに、「公共交通の役割や利用」**について、感想文を書いてもらう。
※事後学習を、家庭学習にするなどして、親の協力を仰ぎ、親御さんの理解を得るという方法も考えられる。
例) 休日の移動について、親と一緒にCO₂排出量を試算し、自動車と公共交通の考えをまとめてくる。等

自分たちの行動で**どの程度CO₂を削減できるものなのか**を学ぶ

教材等の事例



仙台市の事例①

実施概要

教材	バス(地下鉄)の学習・体験乗車
対象学年	1年、2年
学習のタイプ	座学 + 実践学習
実施教科	生活科
連携教科	国語
標準校時	2校時
学習場所	教室、校外



▲事前学習風景



▲バス乗車体験風景

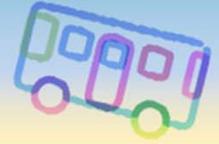
学習の構成

STEP1:「事前学習」

- ・国語の「自動車くらべ」に関連させた、公共交通の学習。
- ・バスの乗り方降り方や、マナーについて知る。
- ・疑似乗車(教室)にて練習。

STEP2:「バス乗車体験」

- ・路線バス貸切りを利用
- ・バス移動中時間を活用した教育(車内マナー教育、紙芝居による公共交通についての学習等)
- ・公共施設見学(地下鉄車両基地、ごみ処理場等)



仙台市の事例①

「バスノート」による
マナー・乗り方の学習

紙芝居による
「自動車と公共交通の違い」の学習

1. バスののりかた・おりかた

1 バス停についたら

じこくひょうで「いきさき」と
「じこく」をたしかめる。



2 バスのまちかた

あるくひとのじゃまにならない
ように、いちれつにならんでね。



3 バスがちかづいてきたら

バスのまえやよこに
ある「いきさき」を
かくにんしてね。



ラビット男爵登場！
「さて、さて、君たち。
どうして、バスなんかに乗る必
要があるのだ？」
バスは、停留所に止まるから、
目的地の場所まで時間がかかる。
走る道路や時間が決まってい
て、自分の好きなようには走らな
いぞ。
いろんな人が乗っていて、席に
座れないかもしれないぞ。
バスは思い通りにならないじ
やないか？」
（コテツ・アリ）
「ふーん。そう言われれば、よ
くわからないなー・・・」



仙台市の事例②

実施概要

教材	バス(地下鉄)の学習・体験乗車
対象学年	5年
学習のタイプ	座学 + 実践学習
実施教科	総合的な学習
連携教科	—
標準校時	2校時
学習場所	教室、校外



▲事前学習風景

学習の構成

STEP1:「事前学習」

・インターネットの公共交通機関サイトを利用し、乗車時刻や目的地までの経路を調べる等、各グループ単位で乗車計画を策定(バス・地下鉄)



STEP2:「校外学習」

・校外学習目的地へ、自分たちで策定した乗車計画に基づき移動
 ・移動先で見学学習
 ・自宅への移動も公共交通を利用する

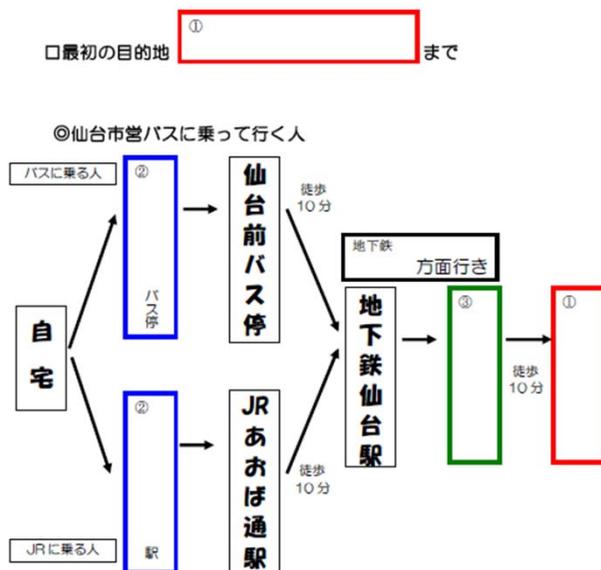


仙台市の事例②

「時刻しらべ」を利用し、目的地までの移動経路(駅)やその出発時刻・到着時刻等を調べる

ステップ1: 乗り物に乗る時刻を調べよう!

1. 調べた、「乗る駅・バス停」「降りる駅・バス停」を書いてみよう!



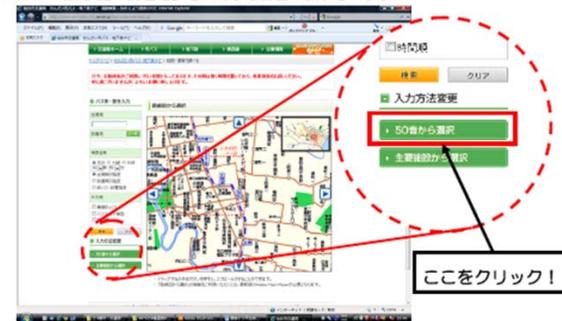
2. 市バスで ② バス停 から9時0分に出発するバスを調べよう

■市バスの時刻の調べ方

- ①「仙台市交通局」のホームページを調べます
- ②左側に「せんだい市バス・地下鉄ナビ」があります。「経路・運賃を調べる」をクリックします。



- ③バスの「出発地」「到着地」を入力する画面が表示されます。





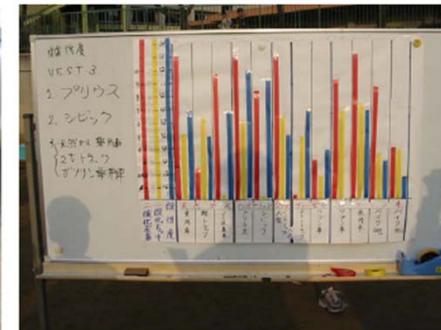
全国の教材事例①

実施概要

教材	かしこいクルマの使い方を考える
対象学年	5年、6年
学習のタイプ	課題発見型学習 + 実践型学習
実施教科	総合的な学習、クラブ活動
連携教科	社会科、理科
標準校時	6校時、家庭学習
学習場所	教室、家庭



▲排ガス測定



▲測定結果



▲結果発表会

学習の構成

STEP1:「導入」
「車に興味を持つ」
・自動車産業
・公害の原因
・交通の発達
・自動車技術の発達

STEP2:
「クルマ大集合」
・車の種類
・排気ガス量の測定

STEP3:「我が家のクルマ利用予定を調べよう」
・車の社会的影響(環境面への効果等)
・利用予定をシートに記入

STEP4:「クルマを使う代わりに...プランを立てよう」
・クルマ以外の交通での移動プランを立てる
・家庭学習として実践する

STEP5:
「実践結果は？」
・STEP4の結果を記録し、CO₂排出量を算定

STEP6:「みんなで取り組みれば地球を救える！」
・結果を発表し合う
・全員の削減量を足すと...?(何かに当てはめて考える)



全国の教材事例①

家庭での自動車利用を記録

②ア 交通ダイアリー

氏名： _____
 月日： 月 日 曜日 _____
 大抵： _____

ご家庭で自動車を最もよく使った人の名前を記入してください。

出発地

場所： _____ (:) 出発
 目的： _____

交通1

場所： _____ (:) 到着
 目的： _____ (:) 出発

交通2

場所： _____ (:) 到着
 目的： _____ (:) 出発

交通3

場所： _____ (:) 到着
 目的： _____ (:) 出発

交通4

場所： _____ (:) 到着
 目的： _____ (:) 出発

交通5

場所： _____ (:) 到着
 目的： _____ (:) 出発

交通6

場所： _____ (:) 到着
 目的： _____ (:) 出発

交通7

場所： _____ (:) 到着
 目的： _____

このダイアリーは、ご家庭で自動車を最もよく使った人が行動を記録するものです。

実際にどれだけのCO₂排出があったのかを算出

⑦ CO₂排出量 計算シート(交通)

あなたの家族が1週間で出したCO₂の量を計算してみましょう。

- (1) ③現状カルテ(交通)の表から、「交通機関別」の休日と平日利用時間の数字を、それぞれ「一日利用時間」の欄に書き写します。休日は2日をかけ、平日は5日をかけ、休日2日と平日5日の値を足して、「1週間利用時間」を計算します。
- (2) 「1分あたりのCO₂排出量」の値と「1週間利用時間」の値をかけ算して「1週間の交通機関別排出量」の欄に記入します。
- (3) 「交通機関別排出量」をすべて足した値が、あなたの家族のCO₂排出量です。

交通機関	(ア) 休日1日 利用時間(分)	(イ) 平日1日 利用時間(分)	(ウ) = (ア) × 2 休日2日 利用時間(分)	(エ) = (イ) × 5 平日5日 利用時間(分)	(オ) = (ウ) + (エ) 1週間 利用時間(分)	(カ) 1分当りの CO ₂ 排出量 (Kg)	(キ) = (オ) × (カ) 1週間の 交通機関別排 出量(Kg)	(ク) = (キ) / (ウ) 交通機 関のシェ ア
徒歩						CO ₂ は 出ません		
自転車						CO ₂ は 出ません		
バイク						0.658		
タクシー						0.010		
バス						0.039		
電車						0.025		
トラック						0.190		*1
自家用車 (運転)						0.094		*2
自家用車 (同乗)						0.047		*3
自家用車以 外(運転)						0.094		*4
自家用車以 外(同乗)						0.047		*5
					(ウ)合計			
					*1 から*5 を足します		自動車のシェア:	9%



全国の教材事例②

実施概要

教材	おでかけ日記
対象学年	3年、4年、5年、6年
学習のタイプ	実践型学習
実施教科	総合的な学習、理科、社会
連携教科	理科、社会
標準校時	3~4校時
学習場所	教室、家庭



▲日記記入のようす



▲結果発表会

学習の構成

STEP1:

「交通の問題について」

- ・色々な交通手段について知る。
- ・それぞれの手段についての問題点等について考える。

STEP2:

「お出かけ日記の記録」

- ・環境にやさしい交通手段に着目させ、自分たちはふだんどのような手段で移動しているのかをまとめ、思い出させる。

STEP3:

「お出かけ日記の結果発表」

- ・一人一人が記録した日記を「環境にやさしい乗り物」「子供一人での移動」「健康」などの面について児童間で報告し合う。

STEP4:

「今後自分たちにできることを考える」

- ・他人のお出かけ結果を見て、良い所、悪い所を評価、どうすれば良いかを考える。
- ・ふだんのくらしの中で環境に配慮する大切さを学ぶ。

教材等の事例



全国の教材事例②

交通手段の種類や、
それぞれの問題点について学ぶ

交通について

いろいろな交通

陸	<ul style="list-style-type: none"> 歩行者 鉄道 自動車 バス トラック タクシー 	<ul style="list-style-type: none"> バイク 原付 自転車 馬車 馬
海	船	
空	<ul style="list-style-type: none"> 飛行機 気球 ヘリコプター 	

日本で起きている交通の問題

- 交通事故
泉大津市では...
交通事故が1年間で、
581件(平成18年)の交通事故が起きている...
- 交通渋滞
都市の中心や高速道路だけでなく、
いろいろな場所で
毎日渋滞が起きている...

渋滞って嫌だよね？

どうして渋滞って嫌？

<乗ってる人>

- 車の中に閉じこめられる...イライラ
- 目的地になかなか到着できない

<みんなにとって(地球)>

- 廃棄ガスがいっぱい出る
- エネルギーの無駄使い

どんな風に渋滞を無くす？

(原因は何？)

道路が少ない？
道が狭い？

それとも...
車が多い？

道路を広くすると...どうなる！？

大渋滞！！

自分の行動を思い出して
おでかけ日記を作成し、発表する

お出かけ日記

ちょうさの 番号

1 ひにち ___月___日 3 天気

2 時間 (出発) ___:___

4 どこへ

自分の家 別の家 学校 じゅく 公園 レストラン
お寺・神社 がくどう コンビニ お店・ショッピングセンター・デパートなど

場所の名前

5 きより 近い:歩いて10-15分で 行ける。
遠い 近い

6 どうやって (方法)ア:徒歩 イ:自転車 ウ:電車 エ:バス オ:車 カ:その他

方法 ()で()分 方法 ()で()分 方法 ()で()分 方法 ()で()分
(1) 目的地 (2) 目的地 (3) 目的地 (4) 目的地

→ 方法 ()で()分 方法 ()で()分 方法 ()で()分 "ホを書いてください！"

7 輩と 知っている大人 知らない人だけ

友達 知っている子供 知っている大人

8 誰を見ました？

9 何をしました？ 座った 立った 歩いた 走った
例) (テレビ・勉強・等) (買い物する等) (スポーツ等)



全国の教材事例③

実施概要

教材	みんなが使う「電車・バスマップ」を作ろう
対象学年	4年、5年、6年
学習のタイプ	課題発見型学習+実践型学習
実施教科	総合的な学習、理科、社会、クラブ活動
連携教科	理科、社会
標準校時	8校時
学習場所	教室、校区内、家庭

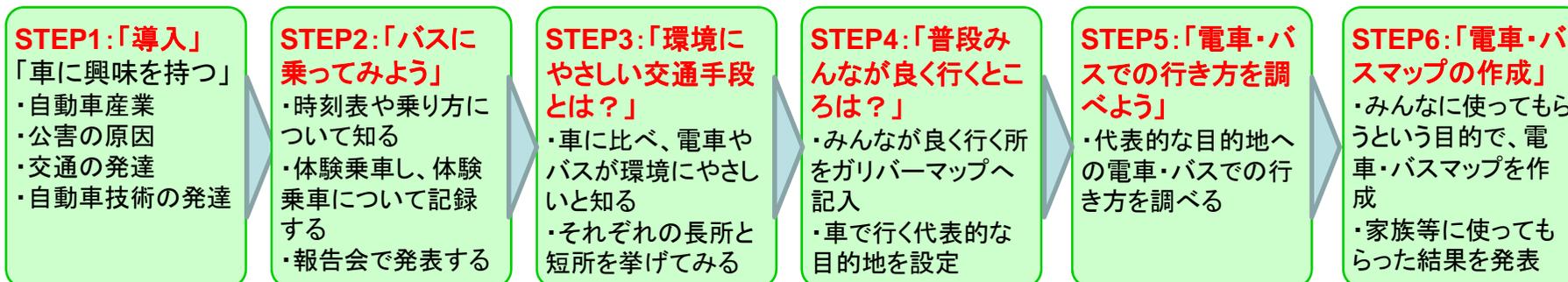


▲乗車体験



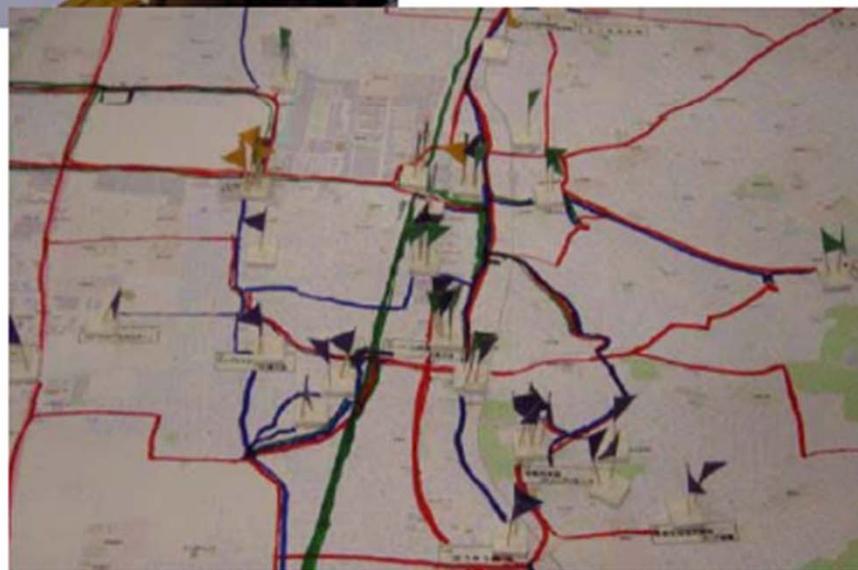
▲乗車体験報告会

学習の構成





全国の教材事例③



▲ガリバーマップの作成



▲マップ発表会



NPOみやぎ・環境とくらしネットワーク保有の教材事例

ストップ温暖化すごろく

- ・環境に関するカードを使い、ゴールを目指す得点制のすごろく
- ・環境にマイナスとなる自家用車カード等を使えば、早くゴールできるが、その分最終得点がマイナスとなるなど、環境要素を取り込んでいる



- 対象 小学校4年生以上
- 時間 30分程度

エネルギーのかばん

- ・日本と諸外国のCO2排出量を重さで表現したもの
- ・日本と諸外国のCO2排出量の違いについて、感覚的に学ぶことができる



- 対象 小学校4年生以上
- 時間 30～40分程度

第5回 仙台市小学校交通環境学習推進委員会議事録

日 時	平成24年7月13日(金) 10:00~11:50	
会 場	仙台市役所2階 第5委員会室	
出席委員	菊池輝委員長 吉村敏之委員 門田陽子委員 伊勢みゆき委員 西嶋茂雄委員 佐藤豊喜委員 宮沢淳委員(嶋中達也委員の代理) 八巻賢一委員 [8名]	【オブザーバー】 狩野鶴巻小学校長 猪股茂庭台小学校長 [2名]
欠席委員	足立千佳子委員 河原木美智也広瀬小学校長 [2名]	
事務局	交通エコロジー・モビリティ財団 交通環境企画課 岡本課長代理 都市整備局総合交通政策部 佐野部長 環境局環境部環境都市推進課 川股課長 都市整備局総合交通政策部公共交通推進課 若生課長 都市整備局総合交通政策部公共交通推進課 坂野主査 都市整備局総合交通政策部公共交通推進課 及川主任 都市整備局総合交通政策部公共交通推進課 小野寺技師	
議 事	1 開会 2 あいさつ 3 委員及び事務局紹介 4 議事 (1) 平成24年度の取り組みについて (2) その他 5 閉会	
配付資料	資料① 第5回仙台市小学生交通環境学習推進委員会 〈平成24年度の取り組みについて〉	

【1 開会】

資料確認【議事次第、委員会名簿、出席者名簿、席次表、資料1】

【2 あいさつ】

○委員長：東北工業大学 工学部建設システム工学科 菊池准教授

本日は第5回の委員会となっております、今年度としては1回目の委員会です。もう少し早い時期に開催したかったのですが、今年度の取り組み方針について、議論して確定して開催したい、委員の皆様が出席可能な日付ということ本日にになりました。本日は非常に重要な議題を含んでおり、交通環境学習推進委員会全体としても今年度は非常に鍵となる年です。本日は皆様から建設的な意見をいただき、さらに前進したいと思います。よろしくお願ひいたします。なお、本日の委員会では、今年度モデル授業を実施していただくことになりました、鶴巻小学校の狩野校長、茂庭台小学校の猪股校長にオブザーバーとして出席いただきます。この件は、委員会の設置要綱第5条第4項の規定に基づいております。

【3 議事】

○菊池委員長

定足数に達しているため会議の成立していることを報告させていただきます。

また、本日の議事録署名人を指名させていただきます。今回は八巻委員にお願いしたいと思ひます。

本委員会については、原則として公開とし特定の個人を識別し得る情報を扱う場合などに関する必要がある場合は、必要に応じて非公開とすることによろしいでしょうか。

(1) 平成24年度の取り組みについて

○事務局

(資料の説明)

○菊池委員長

前半部分では、これまでの取り組みを説明いただきました。私から11ページ「取り組みの目標」の学習内容の流れを示す図について補足して説明します。図の学習の目標はこの委員会で設定しました。これを作る際に言葉の表現に非常に苦労しました。我々の目標は「交通環境学習を仙台市全市的に広めたい」ことから「環境」という文字を強調すると専門家ではない小学校の教諭たちにとって、高いハードルに感じられてしまうのではないかとことから、「公共交通をかしこく使える」をこの委員会の取り組み目標としました。

しかし、誤解していただきたくないのですが、これは文字通りに「いろいろ考えて使う」ということも含まれますが、委員会の中では13ページの高学年の学習内容に記載されているように「交通手段のそれぞれの長所・短所を知る」の第1点目に「環境面」を挙げております。このことを念頭に置いた上で「かしこく使える」という表現であることを認識いただきたいと最初におことわりさせていただきます。

それでは、本日のメインとなります 15 ページ以降の「平成 24 年度の取り組み」ですが、説明に不明な点、掘り下げて質問ございましたらどなたでも結構でございます。何かございませんでしょうか。まず、振り返りとして、3 月に開催した第 4 回の委員会の対応が 16 ページにあります。皆様からいただいた主な意見が左側に、今年度の対応方針を右側に記載しております。今回は具体的な対応方針を提示できておりませんが、7 つの項目について今年度検討するという事で資料を作成しています。検討にあたり委員の皆様から意見を十分に伺い、反映されたかあるいは検討の結果どういう結論に至ったについては、今年度末の委員会で示したいと考えております。この 7 つの主な意見の他に追加項目であるとか補足等ございませんでしょうか。

○門田委員

16 ページの「委員からの主な意見」の 5 つ目。環境学習も同様ですが、子供が頑張って学習をしても親が「めんどくさい」と言ったら終わりになってしまう。どのようにして行動に導くか？家庭と授業が繋がるかが問題になると思います。委員会の前に各学校・学年の先生方から意見・要望を事務局で聞いておりますが、保護者との繋がりについて先生方から意見がなかったでしょうか。

○事務局

校外学習時に親御さんに協力いただくなどが考えられ、昨年親御さんに同行いただいた例もありました。親御さんに学習内容を理解してもらうことが重要になりますので、宿題としてお子さんと一緒に公共交通での移動について考えてもらったり、授業参観に参加していただき体験授業の引率に協力いただくなども考えられます。体験学習の振り返りをする場を参観日にし、親御さんに理解してもらう内容にするなど、各学校で工夫をしていただくように考えています。

○門田委員

26 年度以降全市的に交通環境学習をとき組む際に重要になると思い、質問しました。

○菊池委員長

非常に重要なご指摘だと思います。学区ごとの地域差等もあると思うので、保護者との関係をいくつかの段階(レベル)でどのような対応が可能か検討してはどうかと考えていたところ です。A4 用紙 1 枚に 2 問か 3 問くらいのアンケートに保護者にお答えいただくと、1 回のキャッチボールだけでも一定の効果が期待できると思います。あるいは親御さんに授業に参加して児童と一緒に何かやるという形式もあるかと思えます。今年度は、モデル授業を実施していただく学校数が多いので、地域差も考慮しながら検討を進めたいと思っております。現場の先生方から、保護者の参加形態について、提案・アドバイス、または、こんな訴えをすると積極的に参加していただけるなど意見がありましたらお願いします。

○伊勢委員

私の妹が、東京の方に住んでおり娘が2年生ですが、学校の授業で公共交通に乗る体験をする授業があったそうです。その時は地下鉄ですが、事前に保護者に先生から連絡しておくことで家庭で話題になり「学校の授業で公共交通に乗る体験があるので事前に練習したい」と言い出したそうです。家族や友達も一緒に事前に乗車体験をしたそうです。

案として、校外学習で公共交通機関を使う時に先生が全部教えるのではなく、子供の中で「自分がちゃんとやらなきゃ」という意識を持たせ、保護者にお知らせすると親子の話題となり、自然と事前学習に取り組み結果的に公共交通の利用に繋がるきっかけになることも考えられると思う。

○菊池委員長

続いて全体スケジュール等ですが、21ページから具体的に各小学校の取り組みについて事務局で打合せをして結果をまとめています。質問・補足・説明がありましたら意見をお願いします。

○宮沢委員

東北運輸局では、仙台市の例を優良事例としてぜひ東北交通環境学習を広めていきたいと考えておりこの環境学習に注目しています。昨日、富谷町の方で小学校2年生を対象にしたバスの乗り方教室を実施しました。宮城交通の協力で営業所に高速バス、ノンステップバスなどを準備いただきバスに触れ合っただけでなく、バスに親しむ取り組みを実施しました。資料に「公共交通を身近に感じる」ということで乗車体験がありますが、乗車だけでなく、「バスに触れ合う」内容を加えるとより子供達が興味を持つと思います。

○菊池委員長

今年度のスケジュールに関して確認です。第6回の委員会が10月予定ですが、各校の取り組み案では、「10月3日」「早ければ9月」と記載されています。各小学校の事情に柔軟に対応し必ずしも第6回で授業計画、教材の学習内容について検討した結果授業に入るわけではないという認識でよろしいですか。

それでは具体的に学習内容になります。21ページ22ページまず低学年ですが、鶴巻小学校と広瀬小学校は過去にモデル授業を実施していただいております、今年度も両校において低学(2年生)でご協力いただきますが、補足のご説明等がありましたらお願いします。

○鶴巻小学校 狩野校長

昨年度2年生の授業を行ったのですが、東北工業大学の学生に作成していただいたバスの整理券発券機、運賃箱のモデルを使い教室で疑似体験をしました。段ボール箱を工夫して作ったモデルですごく楽しく疑似体験できたので大変良かったと思いました。次の段階として実際にバスに乗りました。今年度も同様に進める予定にしております。

先ほど保護者との繋がりについて話題になりましたが、昨年度も実施したのですが担任だけでは手が足りないため、学習サポーターのという形で保護者3名に協力いただき、親御さんにも話題を広げるよう取り組みをしております。

○菊池委員長

鶴巻小学校で、防災教育のお話が挙がっておりますが慎重に検討したいと思っております。防災教育も防災教育で完結したもので非常に重要ですし、どちらの学習も中途半端にならないようにしたいからです。

続いて中学年、資料の 23 ページ 24 ページです。モデル授業を実施する小学校で、体験授業でゴミ処理場の見学を予定されております。ゴミ処理施設と環境問題は密接に関係しますので、それと併せて移動する時の交通手段と環境の関係で良い教材を何か作れないかと思い拝見しておりました。

茂庭台小学校は 3 年生、昨年度は 2 年生でした。学年が持ち上がって 3 年生になって引き続き実施していただくわけですが、補足などございましたらお願いします。

○茂庭台小学校 猪股校長

昨年は 2 年生ということで、当校では公共交通機関の利用が少ない子供が多いです。基本的な乗り方降り方、マナーを学ぶ機会がない。その点を狙いにし大人の手を借りながら、基本的なバスとか地下鉄の乗り方降り方について学ばせたいという思いがありました。具体的には模擬料金箱や電子教材など委員会で作った資料を活用し、富沢の車両基地を会場にバスと地下鉄、大人の手を借りながらですがチケットを買ったり、乗ったり、マナーについて学習させていただき、マナーが極めて良くなりました。既に 3 年生になって校外学習を実施し、貸し切りバスではありましたが非常に静かな状況で話を聞くことができるようになりました。昨年の学習の効果ができていると担任が言っておりました。

今年は 3 年生ということで、大人の手を少し減らして「自力」でというところに主眼をおいて学習させたいと思います。10 月 3 日に科学館で理科の実験学習をすることになっており、科学館までは、バスと地下鉄を乗り継ぎとなり子供達にとっては極めてハードルが高いです。茂庭台団地からバスに乗ってどこで降りたら良いかなど経路についても考えさせ、地下鉄の乗り継ぎ方法など実践的な学習をさせたいと考えております。

今年度も、委員会で作った教材を活用させていただきたいと考えており、学習を支援していただけたらと思っております。なお、保護者の話が出ましたが、本校でも鶴巻小学校同様に学習支援ボランティアということで、学校の外に出る時は必ず保護者の方々にボランティアとして参加していただくよう取り組みます。たくさんの保護者の方に来ていただき、そういった方々スポークスマンになって、他の保護者に「今こういう学習をやっているよ」と広めていただきたいと思います。

○菊池委員長

それでは高学年 25 ページ 26 ページに記載しております。台原小学校と虹の丘小学校ですが、台原小学校、虹の丘小学校は今年度初めてご協力いただきます。また、あまり我々として経験が蓄積されていない高学年に対してのモデル授業にご協力していただけるということで、我々も非常に全力を尽くしてサポートしたいと思っております。何か現時点でお考えのこととか、委員会に望むものとかございましたらお願いします。

○台原小学校 佐藤校長

どんな結果が出るのか非常に興味を持っております。6年生が修学旅行で自主研修を実施しており、様々交通機関を利用して自分たちで移動して学習します。その前段として、5年生では仙台市内の観光スポットや歴史史跡など子供達が興味を持っている場所を子供達自身の力で、公共交通を利用して周ることを目的とします。

私の一番の関心は、子供達の日常の公共交通利用に繋がっていくか、あるいは親御さんの利用に繋がっていくかということです。まずは子供自身が関心をどれだけ高められるか、問題意識を持って学べるかです。初めて授業ですのでぜひ親御さんに参観していただき、アンケートや感想を聞きたいと思っております。どれだけ親自身が JR やバスを利用しているのか、子供はどうかなど実態調査をしながら、単なる参観ではなく、自分が日常どの様に利用しているか、なぜ利用しないのかも含めてのアンケート調査を実施したいと考えております。それにより、意識が変わってくるのではと思っております。具体の学習計画はこれから検討したいと考えております。

○虹の丘小学校 西嶋委員

私はこの取り組みに関心を持っております。5年生の担任を呼んで話をしたところ、取り組みに積極的であり、担任と内容について考えております。どんな授業になるのか興味関心を持っております。先程の委員の皆様の見解と同様に私も一番は、子供達の興味関心をいかに高められるか、そのきっかけ作りが大きな課題であると感じています。また、親の環境意識をどうすれば高められるかが大きな課題になると思います。例えば、授業で公共交通を利用し活動することは可能です。しかし、日常生活ではどうなのかが一番問われるところであると感じております。環境意識高めるには、体験させることが必要だと思います。体験したことのないものには、興味関心がなかなか沸かないものです。私はこの活動・取り組みにテーマを設け、年に1回は全学年で公共交通機関を利用するようにし体験通じて子供達が興味関心を持つようにする必要があると考えております。

もう一点、健康に関心がある人は多いことから意識を高めるため、成人病というキーワードがあると思います。近年、成人病は成人だけでなく、低年齢化し生活習慣病と呼ばれ子供達の中でも肥満が増えております。解決方法として公共交通機関を使うことで少しでも自分の足腰が丈夫になり、健康の面からのアプローチすることで親の意識を変えていくことも必要ではないかと思っております。このように公共交通機関と環境の面も大事ですが、自分自身の健康も公共交通機関と関係があり自分自身のプラス面を考えてみる方法も良いと思います。このように色々な面から、公共交通機関の利用についてアプローチすることを考えても良いと思います。

○菊池委員長

他にご質問、各校の取り組みについてご意見、アドバイスがありましたらお願いします。

○吉村副委員長

お忙しい中、校長先生方の大変前向きなご意見伺いまして大変力強く思います。仙台市で使っている東京書籍の教科書で地域についての学習があり、佐藤校長先生の台原学区がモデルになっております。学習内容に地域の探検として「交通の様子」があり、子供が台原学区を調べる設定になっており次のような記載があります。「公園の入口にある地下鉄の駅前にはバスやタクシーが停まっています」「休みの日にはたくさんの人が公園に来ます」「地下鉄やバスで公園に来る人はどのくらいいるのかな」と記載があり、仙台市で使っている教科書にも、公共交通機関の利用を促す内容があります。先程、校外学習で公共交通機関を活用すると伺いましたが、教科書にも「仙台駅前ビルや交通機関が集中しているので、電車やバスを使って仙台駅に調べに行こう」という項目があり、公共交通機関を利用して仙台駅を調べる設定に教科書がなっております。要するに教科書学習に加え、実際は先生方が子供と一緒に公共交通機関を使って調査するなど体験が必要であると思います。先程3年生で猪股校長先生からのこれからの展望を伺いながら力強く思いましたけども、実際科学館に行く時に茂庭台からバスと地下鉄で公共交通機関を乗り継いで行くという、実践を提供していただくと、社会科の学習にもなり、教科書を活用した学習にもなり、結果的に私達が実施している交通環境学習に繋がると思いました。

西嶋先生の話で、健康など違った面への注目も非常に大事であると思いました。というのは、栗原地域の高校に研修に行った時に、過疎化によりバスやくりはら田園鉄道が廃止され、時間があるおじいさんおばあさんがマイカーで高校生を毎日送迎しているケースがありました。それによりバスに乗らなくなる悪循環になります。それは、西嶋先生の話にありましたが、体を使わなくなるので健康面からも問題であり、高等学校の先生は精神面を心配しておりました。これから自立しなければならない時期に孫がかわいい気持ちは分かるが、いつまでも送り迎えしてもらっていると精神的な自立が妨げられる。そのため、公共交通機関を利用し自力で通学することも必要であると思います。マイカーはプライベートなスペースで快適に移動できる。同じように公共交通の楽しさを、子供達や親たちの世代も体験するのは難しいと思う。しかし、健康面や精神面、また、将来のより幸せな暮らしという意味で、公共交通の利用は、面倒であり我慢を強いられる場合もあるが、公共交通機関は大事であることを子供が実感できる様にしていきたいと思いました。大変先生方も前向きなご意見だったので期待しております。

○菊池委員長

その他全体を通していかがでしょうか。25ページの台原小学校の意見の「担当の先生の意見・要望」の二つ目に「だからといって、公共交通の環境影響について1校特別に設けることは計画上不可能」とご意見があり、率直なご意見であり現実にこのように思われる先生方がたくさんいると思います。このような負担を軽減して、実効的なモデル授業・教材を提供したいと思っております。

関係ない話ですが、最近車を買って替えてナビゲーションシステムが新しくなりました。経路探索をすると時間の他に緑のマークが出て、どのルートのエコ度が高いかエコ度が見えるようになっています。インパクトが大きくて、色付で葉っぱのマークが多いと目に留ります。時間や数字よりもビジュアルな仕掛けは目に留まります。その様な工夫をされて門田委員は

環境問題に取り組んでおります。今日は教材をいろいろお持ちいただきましたので、教材について紹介したいと思います。

○門田委員 (MELON)

教材の紹介 (PPT 資料、CO2 の重さバッグ、すごろく等)

○菊池委員長

ありがとうございました。いくつも交通環境学習に活用できる教材があります。これをこのままご活用いただくということも、要望等に応じて当委員会で意見を吸収しながら教材の開発を行いたいと思います。意見がありましたらお願いします。それでは議事の 2 番目その他についてお願いします。

(2) その他

○環境局環境都市推進課 川股課長

環境局の環境都市推進課でございます。お手元にエコチャレンジの冊子を配布しましたので簡単に紹介します。当課が事務局で委員の門田さんの MELON も入っている「FEEL Sendai」という環境学習の推進会議、交通局、仙台市地球温暖化対策推進協議会で例年作成しております。夏休みに向け各学校で配布するものです。内容は、2 部構成でスタンプラリーとエコチャレンジになっています。12~13 ページには、エコチャレのチェック項目があり、公共交通に関するものがチェック 6 にあります。チェックシートでチェックしていただき、あわせて各ラリースポットを回っていただいて、スタンプとチェックシートを合わせて応募していただくものです。応募は、小学生全体で例年 2 千~3 千くらいですが、エコチャレンジの方にいろいろなエコな暮らしについて、特に今年は省エネに絞って書いておりますが、各家庭でも親御さんと一緒に考えていただく機会になればよいと思います。

○菊池委員長

以上で議事の方は締めたいと思います。本日は色々な意見ありがとうございました。

○事務局

菊池委員長ありがとうございました。最後閉会にあたり、仙台市都市整備局総合交通政策部長の佐野よりご挨拶申し上げます。

○都市整備局 総合交通政策部 佐野部長

総合交通政策部長の佐野です。委員長、副委員長をはじめ各委員の皆様にはお忙しいなか出席いただきありがとうございました。また、長時間にわたる審議お疲れ様でした。仙台市では公共交通の利用促進に力を入れております。これまでの自動車利用を前提としたまちづくりの軌道を修正する時期であることから、今仙台市のまちづくりは、過度に自動車に依存しないまちづくり、環境にやさしいまちづくりを進めることが市の方針として掲げております。その方針に沿った取り組みがこの公共交通の利用促進というまちづくりです。しかし、

この方針を掲げてはみたものの、慣れ親しんだクルマからバスとか地下鉄などの公共交通への転換が一朝一夕で進むものではありません。時間をかけて継続的に取り組むことが重要であると考えております。何事もそうですが、経験や習慣が大切であると感じております。乗り物の選択も例外ではないと思います。「乗ったことがない」「使ったことがない」ことから公共交通利用に抵抗感をお持ちの方々も多いようですので、抵抗感を低くしていくところから始めていく必要があると考えております。そのため、何事も始めが大切と感じており、仙台市ではバスマップを転入者の方々には住民登録の窓口で、大学生の方々には合格通知に同封し、バスや地下鉄の利用方法の周知に努めております。同じ考え方から、将来利用者となる小学生にもできるだけ早い時期から公共交通に親しんでもらい、最終的には乗車習慣まで身に付けていただくことが重要であると考えこの取り組みを実施しております。皆様忙しいとは思いますが、今後も引き続きこの取り組みに協力していただくようお願いして挨拶に代えさせていただきます。本日はお疲れ様でした。

議事録署名人

平成24年11月9日

仙台市小学生交通環境学習推進委員会 委員長

菊池 輝

仙台市小学生交通環境学習推進委員会 副委員長

吉村 敏之

仙台市小学生交通環境学習推進委員会 委員

八巻 賢一